

Pick Up

ニート・ひきこもりを支援するNPOの挑戦

NPOこそ、



お金を稼ごう!

NPOコトバナアトリエ・代表
山本繁さん

1978年生まれの若者は、
企業で働くことを選択せず、社会のために活動し始めた。
NPOという形態で、ニートやひきこもりの支援に奔走する毎日。
収入は会社員時代より下がったが、
彼らの笑顔を見るのが楽しみだという。
しかし若者は、それで良し、としなかった。
社会を変えるために、もっと良くするために、
お金を稼ぎ、さらに充実した仕事をしたいと考えた。
若者の名は、山本繁。
弱冠28歳の、この若きリーダーは、
慈善と営利を両立させるべく、日々走り続けている――。



NPO「コトバナアトリエ」代表の
ブログ
http://blog.kotolier.org/archives/cat_50003382.html



コトバナアトリエ
～ニート・ひきこもりの就業問題の
解決に挑むNPO
<http://www.kotolier.org/>



Profile

やまもと・しげる

1978年、東京都生まれ。02年慶應義塾大学環境情報学部卒業。教育関連企業を経て、02年、NPO「コトバナアトリエ」を設立。「すべての人が、家庭の経済力に関係なく、就きたい仕事に就くための教育を受けられる社会の実現」をミッションとして、クリエイティブな仕事に就きたいニートやひきこもりの支援や育成を始める。07年、社会起業家のためのビジネスプランコンテスト「STYLE 4th」で「優秀賞」を受賞。座右の銘は「有言実行」。

経済格差を垣間見て 社会の問題に気がついた



「えっ？ 使命感ですか？ うーん、そういうのって、どうやって持つんですかね」

山本繁さんは、そう言って笑った。NPO『コトバナアトリエ』の代表。28歳。彼は、作家やライター、漫画家、ディレクターといった、クリエイティブ系の仕事を希望するニートやひきこもりを支援している。

「たとえば、こうした信念があるから、この活動をやってます、という人があるじゃないですか。そういう太一本のエネルギーみたいなものは、僕にはないんですよ。ただ、こまかい動機はたくさんあって、それらが束になっている感じです」

山本さんが大学時代に体験したことも、そのこまかい動機のひとつを形成しているという。

「僕は大学時代、演劇をやりましたから、その関係で中高生に演劇を教えるコーチをしていたんです。思春期の子供たちに、表現のスキルを身につけさせるのは、とても素敵な仕事だな、と思いました。ですから、大学を卒業してからも、会社員をやりながら、中高生に小説の書き方を教えるワークショップを開いたんです。それがNPO『コトバナアトリエ』の始まりでした。

ちゃんと活動し始めたのは、2002年の10月ぐらいからです。彼らを教えていくうちに、いろんな社会の問題が見えてきたんです。僕が活動していたのは神奈川の湘南地区なんですけど、いわゆる「逆南北問題」があったんです。つまり、南の地区は1億円の家に住んでいるような層がいる反面、北は家賃6万円の団地に家族4人で暮らしている人たちがいて、格差のようなものが垣間見えたわけです。それまでは、僕、何も考えてなかったんです。自分がやりたいことをただ、やっていただけ」

ニートやひきこもりこそ クリエイティブな仕事に ふさわしい



ニートや元・ひきこもりなどを対象に、小説家やライターを養成する「神保町小説アカデミー」。格安の家賃で、漫画家志望の若者を住ませ、漫画家を育成する「トキワ荘プロジェクト」。そして、ニートやフリーター自身がスタッフとなって運営するインターネットラジオ「オールニートニッポン」など、ユニークな活動を続けているNPO「コトバナアトリエ」。これらの活動に共通しているのは、ニートやひきこもりの若者たちがクリエイティブ系の仕事に就くための支援である。



ニートやひきこもりなど、「生きづらさ」を抱える若者たちに送る公開生放送型インターネットラジオ「オールニートニッポン」。元・ひきこもりやニートの若者がスタッフとして放送に従事している。

「そもそもひきこもっている奴って、暇じゃないですか。おまけに金も無い。じゃあ何をやっているかというと、ブックオフで100円の本を買って読んだり、ゲームやネットをしているんです。だから、メディアに接する頻度や、エンタテインメント作品の消費量は一般の人よりもはるかに多い。それってクリエイターや、表現活動をしている人にとっては、日々当たり前にならなければいけないことですよ。ですから、彼らは暇そうに見えて、ちゃんとトレーニングしているんです」

そういう人たちの能力を引き上げるのが、山本さんの役割だ。

Pick Up

「よくノートやひきこもりが、不相应な夢ばかり追っているという批判がありますよね。あれには僕も一理あると思います。作家になりたい、と言ってる奴に、『じゃあ、お前、何か書いてるの?』って訊くと、『いや、まだ何も書いてない』という場合がある。確かにそれはまずいでしょう。

でも、「コトバノアトリエ」の場合、みんな結果的に努力しているんです。「オールノートニッポン」は、毎週、実際に生放送があってリスナーもいるわけだから、やらざるを得ない。そうなるとうちにスキルが上がっていく。「トキワ荘プロジェクト」にしても、たとえ漫画家になって、デビューしたとしても、そのあと生き残るのはすごく大変なんです。ただ、ものすごい量の絵を描かせますから、画力が上がるじゃないですか。そうすれば、たとえプロの漫画家に

なくなるのが現状だ。

「NPOこそ、お金を稼がなきゃいけない」と思っています。社会を変えるにはお金が必要。そう言うとなんだか政治家みたいですけど。ははは。でも、ラジオをやるには機材を買わなきゃいけないし、出演者を呼ぶにも、ギャラが必要です。小説の書き方を教える講師にはお金を払わなければいけない。教育というものは、お金がかかるものなんです」

企業からの寄付や、自治体からの助成金などの支援を受けている「コトバノアトリエ」だが、資金はまだまだ足りないという。

「もっと欲しいのはやまやまなんですけど、実はあまり助成金の申請をしていないん

ぐらいの給料しか貰えないんですよ。せめて、企業で働く分の7割か8割ぐらいの給料になったらいいんですけどね。だから、誰かNPOで、月収50万を超える人が出てきてほしい。ただ、NPOで年収300万を超えると批判されたりするんですよ。NPOの皮をかぶった営利企業だ、って言われる。そんな風潮も変えていきたいんですが」

収入を下げても、NPOを運営する山本さんのモチベーションはどこから来るのだろう。

「ノートやひきこもりの連中が、前向きに取り組み始めて、成長していくのを見ているのは、なかなか楽しいし、気持ちがいいんです。そういう場面をたくさん作りたいんじゃないかな。僕は大学の専攻が『金融工学』だったんですよ。もう、お金のことばかり考えてましたからね。それってつまらないなあ、と。それでこの仕事をやっているようなものですね」

NPOの仕事は、職人の世界だと語る。

「ノートやひきこもりと向き合って、彼らが何を求めているのかを考え、一人一人に深く満足してもらえるようにするためには、職人的なスキルが必要ですね。ただ、そのスキルをもっと世の中に広げていかなければならない。身近にいるノートだけ支援しても仕方がない。困っている人は他にもたくさんいるわけですからね。事業を広げるためには、もっとお金を集めて、大きな規模で運営できる経営感覚も求められます。

今、僕はギリギリで生活できているんですよ。このNPOを始めて6年目ですけど、自分としては、6年目でここまで来たのは早いですね。まあ10年やって食えればいいと思ってましたから、上々なんじゃないかな」

まともな収入を得て、しかも、社会に貢献することができるのがNPOの理想型だ。その道はまだまだ険しいかもしれないが、ビジネスセンスを磨こうとする姿勢と、社会を良くしようとする気持ちを併せ持った山本さんの進む方向性は、生き方の新しいモデルとして、多くの人々の参考になるのではないだろうか。

Text by : 植田マサユキ



漫画家志望の若者に格安で住居を提供し、1年でプロの漫画家になることを目標に創作活動に取り組ませる「トキワ荘プロジェクト」。作品の持ち込みサポートや、デザイン系のアルバイトの斡旋などもおこなっている。



作家やライターなどを志望するノートや元・ひきこもりの若者を支援する「神保町小説アカデミー」。創作活動を通して、高度な文章表現能力と、コミュニケーション能力を養成している。

なれなくても、世の中には絵を描く仕事はたくさんある。「神保町小説アカデミー」では、今度、45歳のうつ病でひきこもりのおじさんが、ライターとしてデビューしますよ。ほんとにコミュニケーション能力がない人なんですけど。ははは。でも愚直なまでに努力家です。成果が出たら自信もつくはず。45歳からの青春っていうのも、素敵じゃないですか」

社会を変えるにはお金が必要 そのためにたくさん儲けたい



NPOは慈善団体ではない。利益を上げ、資金を確保し、運営していく必要がある。そうしないと、スタッフの給料もままなら

です。というのも、申請をしてから、助成金が貰えるまでに時間がかかるんですよ。審査に落ちたら貰えないわけだし、そのときはすごく時間の無駄になる。また、助成金が無くなったら、事業ができなくなる危険性もある。ですから、助成金や寄付に頼らなくても、ちゃんと活動できるように、自分たちでお金を稼ぐ能力をもっと身につけたいと思っています」

自分の給料をもっと上げたい、と語る山本さん。

「会社員を辞めて、NPOを始めたらやっぱり給料は下がりましたね。今、NPOの業界って、その人が企業で働いた場合の3分の1